

第18回県政ひざづめ談議結果概要

○ 開催日時：平成21年12月22日 14:00～

○ 開催場所：山梨県工業技術センター

〔司会〕

それでは、知事対話、『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。
まずはじめに横内知事からあいさつをお願いします。

〔知事〕

皆さん、こんにちは。それぞれお忙しい方々だと思いますけれども、こうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。

今日は経営革新交流会に所属をしておられる方々をはじめといたしまして、本県のものづくりの第一線でがんばっておられる会社の若手経営者にお集まりをいただいたということでもあります。ものづくりの第一線で努力をしておられるだけに、また昨今の経済情勢の中でご苦勞のほうもまた第一線でご苦勞しておられるだろうというふうに思うわけですが、しかしそうは言っても最近少し景気も明るさが見えてきて、物事が動き出したというようなことを聞いております。まだ底這いの状態は状態なんでしょうけれども、来年に私どもとしても期待をしているわけがあります。今日はそういうことで、日頃の皆様方のいろんな苦勞話、またどういうことに工夫をしておられるか。また皆様方のその努力に対して県としてどういうことが応援することができるのか。そんなことについてざっくばらんにご意見をお聞かせをいただければありがたいというふうに思います。

まあ1時間という比較的限られた短い時間ではありますが、有意義な意見交換をさせていただければありがたいというふうに思っております。今日はどうもありがとうございます。

〔司会〕

それでは続きまして、本日同席をしております県の担当者を紹介させていただきます。
経営革新などの企業支援を推進しております尾崎産業支援課長です。

〔尾崎 産業支援課長〕

尾崎でございます。よろしくお願いします。

〔司会〕

企業誘致を推進しております高根産業立地推進課長です。

〔高根 産業立地推進課長〕

高根です。よろしくお願いします。

〔司会〕

それでは早速意見交換に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

〔知事〕

皆さん方はそれぞれ親会社と言うんでしょうかね、元請会社がいて、その会社の受注を受けて仕事をしておられる方なんでしょうね、ほとんどが。

〔参加者〕

県内ではT H Kさんという会社・・・

〔知事〕

T H Kね。なるほど、なるほど。T H Kは何を作っているんですか。

〔参加者〕

免震テーブルとか、ボールネジとか・・・。

〔知事〕

そうですか。そちらは金型ですか。

〔参加者〕

はい。精密部品の金型と、プレス加工をしています。

〔知事〕

主として取引先はどこなんですか。

〔参加者〕

主とする所は特になくて、実はお客さん多数、県外含めて、メインという所は・・・

〔知事〕

じゃあ売手市場ですな。

〔参加者〕

そうでもないんですけども。

〔知事〕

どういう金型ですか。

〔参加者〕

例えばE T C、今千円で週末やっている、あの中に入っている部品ですとか・・・

〔知事〕

そういう部品のね、部品の金型。なるほどね。お得意先のほうから設計図が来て、それでそれを制作する。

〔参加者〕

そうです、そうです。

〔知事〕

そうですか。そちらは精密板金・・・。

〔参加者〕

精密板金加工です。仕事量的には正直言いまして90%近く戻ってきているんですけども、コスト的にライバルが東南アジアでして、かなり急激にダメージを・・・

〔知事〕

そうですか。厳しいもんですね。

そちらは半導体製造装置だから、これはエレクトロン。

〔参加者〕

いえ、自前でやっているんです。むしろコンペです、東京エレクトロンさんは。

○横内正明 山梨県知事

コンペ、競争相手・・・

〔参加者〕

競争相手になります。

〔知事〕

それはすごいね。たいしたものですね。製造装置の設計制作といっても全部が全部作っているわけじゃないでしょう。ウエハーの製造・・・

〔参加者〕

ウエハーは自前で。ウエハーの検査装置と、あと大気圧プラズマというプラズマを使ってウエハーを処理する装置を開発して作っている会社です。

〔知事〕

エレクトロンも検査装置、製造装置ですもんね。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

ああ、そうですか。それでそれはどういう所に入れているんですか。

〔参加者〕

東芝の四日市工場とか、あとキャノンさんとかエプソンさんとか、ルネサスさんです。まあほとんどが国内メーカーさんですね。今実際には半導体製造装置が国内はもうかなり投資を控えていますので辛い状態ですね。

〔知事〕

設備投資は厳しいからね。だけど今、じゃあ従業員さんは何人ぐらいいるんですか。

〔参加者〕

今、国内は30人。

〔知事〕

30人、たいしたもんですね。

〔参加者〕

インドで40人。

〔知事〕

40人。そうですか、立派なもんですね。
そちらは非鉄金属部品製造・・・。

〔参加者〕

要するに金型の素材です。

〔知事〕

そうですか。そちらは省力化企業設計制作・・・。

〔参加者〕

ということになっておりますけども、一番メインは機械のメンテナンスを一番メインにしております。

〔知事〕

それは通常の機械を・・・、どういう機械ですか。

〔参加者〕

基本的に、工作関係はすべて手を出させていただいています。

〔知事〕

メンテをね。何かやっぱりもちろん技術を持っておられるんでしょう。どういう分野がお得意の分野ですか。

〔参加者〕

本当は金属製作加工屋から始まりまして、設計とか改造で色々やらせていただいていたんですけども、その辺をやっていったノウハウをそのまま逆転させて、作れるんだったら壊せるでしょう、壊す理屈が分かるでしょうという理由の中で、松下電機さんとかファナックさんに育てていただきました。

〔知事〕

工作機械のメンテというと、どういうノウハウとか技術というのが大事なんですか。

〔参加者〕

単純にですけれども、やはり修理ですともう壊れているものを見極めるだけですので、そんなにたいしたことはないと私は思っているんです。メンテナンスという部分で言いますと基本的には組み立てたものですから、もう一度同じことをするということは人間の手でやったことなのでできるという自負でやってきております。

〔知事〕

そうですね。なるほどね。そちらは都留のほうから・・・。

〔参加者〕

はじめまして。

〔知事〕

治工具とありますが、何なのかな・・・

〔参加者〕

要は、物というのは基本的にそれ一つじゃ完成しないわけですね。それに結局いくつものパーツが組み合わさって初めて品物としてなるわけなんですけれども、そのために例えば組立の時に固定できませんと。その時に例えば固定するために何かそういう製品をセットするための受けですね、そういうものを作れば作業者は組み立てやすいと。当然固定されていますから傷も・・・、まあ分かりやすくご説明するとそういうことなんですけど、実際やっているのはそういう仕事じゃなくて、違う分類での治工具になってくるんですけども、メインは自動車ですかね、はい。

〔知事〕

自動車のね。色々なものがあるものですか。そうですね。
そちらは。

〔参加者〕

メインな仕事というのは精密機械装置の設計製造ということでやっておりまして、特に熱カシメ機という物が売りなんですけども、その熱カシメ機というのは本来二つの部品を

ネジ止めとか接着剤で着ける代わりに、一つの部品がプラスチックであればそれを熱で温めて、圧力を掛けて変形させて、もう一つの部品を固定するという、そういう機械を作っているんですね。若い人たちが設計をして、そして組立もしてはまして、当然外注している部品もあるんですけども、売り出しているんです。

〔知事〕

例えばどういう所に納めるんですか。

〔参加者〕

メインはコニカミノルタさんの会社に結構納めさせていただいてはまして、光学系ですね、カメラとかカメラレンズとか携帯レンズとか、そういうものを加工する機械で、今お客さんはそちらのほうメインなんです。最近は食品関係とか、別のほうにもお客様が増えつつありまして、もっと分野を増やしていきたいというのがちょっと課題ではありますけれども。

〔知事〕

なるほどね、そうですか。

そちらは熱処理加工ね。得意先というか、メインの取引先はどこなんですか。

〔参加者〕

特に際だってここがというのはないんですけど、県内の企業さんはほとんどがうちのお得意さんという形になっています。しいてあげますとやっぱりTHKさんとか、ファナックさんとかがお客さんという形でやっております。

〔知事〕

そうですか、そうですか。

そちらはどうですか。

〔参加者〕

小瀬スポーツ公園近くでメッキ屋をやっております。

〔知事〕

メッキね、県下じゃ一番大きいでしょう。

〔参加者〕

県下ですか、そうですね。

〔知事〕

お父さんはまだ健在で・・

〔参加者〕

健在で、今日も会社に来ております。

〔知事〕

そうですか。この間お会いした時には、「いや、忙しくて、忙しくて」なんて言っていました。

〔参加者〕

そうですね。去年の暮れは忙しくて、そしてガタツときて、まあ車のほうはちょっとエコカーが伸びたんで・・・。

〔知事〕

大分戻ってきましたか。

〔参加者〕

そうですね、戻ってきて、ちょっとまた落ち着いてしまったなという感じで・・・

〔知事〕

そうですか。そちらはどうですか。

〔参加者〕

精密板金。板金の部門が一番大きいんですけども、プレス、マシニング製作ですね。それから金型の製作。そして組立てまでやっております。今設計もちょっと力を入れておりまして、その物作りを知っている者が設計から、まあ安くていい物を作るというコンセプトで、設計の社員さんも現場をよく知って、その者が設計をして、お客様にいい物を安く提供するという事で今動いております。

〔知事〕

なるほどね。いや、ひととおりでどういうことをやっているかをお伺いしましたが、さてじゃあどうですか。今どういう方面にチャレンジをしようとしているかとか、そういうような話をちょっと聞かせてもらいたいと思います。どなたでもいいですがね。

やっぱりあなたがおっしゃった、東アジアといいますかね、そちらのほうとの競争というのはかなり激しくなっていますか。

〔参加者〕

そうですね。リードタイム、納期があるものに関してはもう東南アジアにということで、スピードがなければ受注できないという・・・

〔知事〕

ただ皆さん方は日本のものづくりではもう最先端の技術を持っていると思うけど、や

っぱり海外の企業もかなり技術力があがってきているんですか。

〔参加者〕

それなりの品質のものを出すというような形になります。

〔知事〕

だからさらに一段高いものを追い求めていかなければいけないということですね。

〔参加者〕

はい。

〔知事〕

そうですか。

何でも結構ですから言って下さい。県がやっていることで何か気にいらないことでもあれば・・・(笑)

〔参加者〕

以前ちょっとお話しさせていただいた新山梨環状道路の件ですが、その時はまあちょっと遅れぎみだという話でした。それからまあ一年が経ちまして、我々も昨今の政治情勢、まあ新聞など読んでいますので遅れぎみなんだろうなというふうなことは思っているんですけど、まあ一応計画の一部であるんで・・・

〔知事〕

それは敷地に一部掛かるんですけどっけ。

〔参加者〕

そうなんですよね。それでちょっと関心が高いので、知事の今のご感想で結構ですので、今後その道路計画というのはどうなるのかなと・・・

〔知事〕

道路計画ですか。

〔参加者〕

はい。

〔知事〕

そうですか。新山梨環状道路の東部区間というやつですよ。南部区間はできたわけだけど、東部区間はどうですかね。まあ造ることは造るんですけども、タイミング的にどうなるかということなんですけどね。

〔参加者〕

大分、遅れているような状況ですので・・

〔知事〕

北部区間もこれもなかなか、まあやっぱりコンクリートから人へという動きが、流れがありますからね。まあでも造ることにはなるんですけどね。ちょっとまだ見通しが立たんですよ。申し訳ないことですね。

〔参加者〕

大丈夫です。

〔知事〕

どこか、どうです、工業団地その際どこか一つ探したらどうですか。

〔参加者〕

そうですね。(笑)

〔高根 産業立地推進課長〕

うちでも応援しますので・・(笑)

〔参加者〕

相談をさせていただきます。その節はまたよろしく申し上げます。

〔参加者〕

知事に見てもらいたいんですけども、これちょうど長野県の工業技術センターに類似する所なんですけども、ちょうど私、長野の方にちょっと打合せに行ったんですが、そういうパンフレットをいただいたんですよ。これはどういうコンセプトで作っているんですかと言ったら、要するにもう東南アジアの人、それからヨーロッパ向け、そういう人たちに長野地域の精密加工の宣伝をするために作っていますというようなことなんですね。

〔知事〕

右がみんな英語になっていますね。

〔参加者〕

右側が英語なんですね。要するに他県でこういうふうには、他県と言っても隣の県ですね、諏訪、岡谷地区が中心だと思うんですけども、要するにこういうことをされる県が隣にあるわけですね、僕らの隣に。そうすると山梨をまたいじゃうんですよ。北からも新幹線を使って攻めてこられるし、中央線使って、要するにもう海外のバイヤーの人たちが長野方面に行ってしまうというような、また山梨がエアポケット状態になってしまうということがもう起きつつあるというのが現状なんですね。工業のもう少しPR的な部分を、やっ

ぱり海外メディアとか、まあ先ほど知事が言われたアジアとか、山梨にもこういう会社があるんですよといったところを強力にPRをしていかないと、もちろんアジアは中心だとは思いますが、それは航空宇宙の関係の、僕らと同じようなものづくりをしていると思うので、だからそういった部分でもっともっとヨーロッパ向けにアピールする。要するに山梨がワインをアピールしているような形で、ものづくりもヨーロッパのほうに伝えていくような、まあこれは一つの事例なんですけども、やはりこの国内需要だけじゃもうだめだということを言われている。そうするとやっぱり海外からの山梨のいい部分を、ものづくりのいい部分を何か広報的な部分でお伝えいただくと非常にありがたいかなと。僕らのやっぱり力だと、その辺はやっぱり厳しい部分があるんですね。

〔知事〕

そうですね。まあこういうパンフレットの的なものを作るというのもいいんでしょうけれども、やっぱり海外のその有力な、いわゆる展示会ですよ、見本市とか、そういうのに出展するのがやっぱり一番手軽だし、早いですよね、効果がね。だからそういうふうなもので、例えば香港だとか上海とか、あるいは台北とか、そういうふうな所で比較的著名な、皆様方の技術の分野に合ったような、そういう催しがあって、それに出たいというようなことがあればね、それは我々としても応援したいと思いますね。かつ一社だけということであれば、それに関連する企業の皆さん一緒にブースを作ってやるとか、そういうお金はあるんでしょう。

〔尾崎 産業支援課長〕

展示会の出展というのは相談に乗っています。

〔知事〕

そうですね、そういうニーズはありますか。

〔参加者〕

展示会というのは非常に効果があると言いますか、ちょっと海外は出たことはありませんけども、やっぱり東京のビックサイトなどでやる展示会というのは非常に効果があって、そこから新しい新規のお客様につながるということは本当にあります。やはりそれだけそういった技術を探しているお客様が来る場所に出展をするというのは非常に効果があると思いますので、海外とかも是非そういった助成をいただきながら、あといろんな面で言葉の問題ですとか、分からない所もあるかと思しますので、そういう手助けをしていただければ非常に効果があるのかなというふうに感じます。

〔知事〕

そうですね。海外の展示会の情報というのをだれか持っている人がいるといいんですがね。例えばこういう分野では、金型分野ではこの展示会が非常にいいとか、そういうのがあればね、分かればいいんですけども、なかなか・

どうぞ。

〔参加者〕

うちはタイに14年前に工場を出しまして、その時にも産業支援機構さんに助けていただいていたことができたんですけど、タイでもうちも展示会に出たりして、そういう情報がもし必要だということであればうちからも提供させていただくこともできます。実際、梨大と燃料電池の研究に、これがまあ山梨県に何か産業としてあれば、なればいいなど、うちも参画させていただいたんですけども、来年3月の燃料電池展にその産業支援機構さんのお話で助成をいただきながら参加させていただくことになっています。

〔知事〕

来年3月のね。

〔参加者〕

はい。

〔知事〕

毎年2月か3月に開かれる国際燃料電池太陽光発電展示会があるね。あれは割と多いですよ。あれはいいかもわかりませんね。そうですか、そうですか。

ほかにはいかがですかね。

〔参加者〕

リーマンショック以降、工業というのかなり打撃を受けていると思います。今日出席されている皆さんの企業というのは優良な企業ばかりなんですけど、県内には本当に工業関係で結構厳しい会社さんも本当に多くあるかと思うんです。私感じるのが、やっぱり工業をやっている経営者の方とか会社の人たちって非常に真面目で、堅実で、これだけ景気が落ち込んでもなかなか消えてしまう会社もないということで、是非工業の会社ががんばっているということを知事にもまず知っていただきたいと思います。環境ですとか農業ですとか、そういったところもいろんな施策の中で県も助成されているかと思いますが、もちろん色々あるかと思いますが、その工業関連も、まあうちなんかも雇用をとにかく維持するというので、そのリーマンショック以降も一人も辞めさせず、逆に二人増やす方向でがんばってきましたけども、是非そういういろんな中小零細の企業に県のほうからも手助けといいますか、そういったものも積極的にやっていただくとさらに県内も活性化してくると思います。あと本当に一社、一社が非常に高い技術を持っているんですけど、ちょっと県民性も感じるんですが、なかなか横のつながりがうまく行っている所は行くんですけど、逆に仕事をわざわざ県外へ取りに行ったり、すぐ近くにあるのにというのもあったりというぐはぐな所もあったりするので、そういうコーディネート的な所もなにかしら、支援機構さんのほうで色々動いていただいてとてもありがたく思っているんですけど、さらにそういった手助けとか、知事のほうからも言っていただけるとなおありがたいかなというふうに思います。

〔知事〕

そうですね、分かりました。産業支援機構の色々な相談員みたいな皆さんと話をしていくと、やっぱり大企業と取引を新たにしていくためには個々の中小企業じゃ無理なんであって、何かそういうものがグループを作って、そして一括受注するような形にしないとなかなか難しいと。大企業にしてみれば、何か一つ一つの細かい部品についてまで全部個別に発注するというのは大変だから、もうこういうものを作ってくれということでもうそのグループがあって、そこに言えばそのグループの皆さんがみんな協力し合ってこう一つ作ってくるといような、そういう横の連携がないとなかなか中小企業への受注にはつながらないということを書いていましたけどね。そういうことはあるんですよ。皆さんの話を聞いていると、それぞれみんな個別にやっているよね。

〔参加者〕

今の知事のお話でいきますと、我々がいくら固まっても、例えばある会社を紹介してお宅が責任取れるのかという話を打破するのは難しいので、できればなんですけど県の方々に一肌脱いでいただいて、一步マッチングですか、何か一度だけでもセッティングしていただけるといろんなチャンスが広がるんじゃないかと。

〔高根 産業立地推進課長〕

聞いていてよく分かるんですけども、一番難しいのは多分東京エレクトロンさんとファナックを比べてしまいますと、運営方針などが全然違うんですね。まあ、我々のほうも企業訪問をする中でそんなことができるかは聞いてみたいと思います。もしかしてそういう形で地元に関係するんですしたら挑戦をしてみたいと思います。

〔知事〕

まあやっぱり一時よく進出企業の地元との連携みたいなことをもっとやってもらいたいと。テクノロジートランスファーをしたりとか、ということを一時期よく言っていたことがあって、最近余り、それほどの余裕も段々なくなってきたからそういうふうになったんでしょうけども、本当は確かにせつかく山梨にいますから山梨の中小企業を大いに使ってもらいたいということを県としても声を大にして言いたいんですよ。けどなかなかその大企業のほうがゆとりがなくなってきたね。もう単価は厳しくなるし、これ以外だったら、これ以下の物ができると言ったら東南アジアでもどこでも発注しちゃうというようになってきましたでしょう。なかなか余り大企業に対してそういう地元をと何か何だと言うと逃げられちゃうんじゃないかと思って心配したりするものだから、余り無理なことが言えなくなっちゃったんですよ、一時に比べるとね。

〔参加者〕

亀井大臣がいわゆる借金の返済を猶予をするというような法案を出されましたが、実際に企業は仕事をして、そこから利益を出して返済しなければいけない。その返済する術がなければ、結局どんなにお金貸してくれるよ、猶予してくれるよと言われても、結局経営者としてはもうどうしようもないと。先が見えませんかということで踏み出せないとい

うところがございます。その先ほどの支援の方法でございますけれども、確かに金融的な支援、まあ確かに緊急的には非常によいことだと思うんですが、要は仕事を出してくれる、仕事を作って、まあ県にこんなことを言ったらおかしいんですけども、仕事を何か作って下さい。具体的に言えば、新しい企業でも県内に誘致していただいて、仕事を作っていただく。逆にエレクトロンさんのように山梨から出ていくと。そういう企業も、まあ出ていくなどは申しませんが、結局として規模が小さくなる。そういうことのないように、引き止める企業は引き止めていただいて、あるいは誘致できる企業につきましては積極的に県のほうでも誘致していただきたいなというふうに考えておりますが・・・。

〔知事〕

確かにね。今日も県の信用保証協会という所に行って、色々年末の金融の話聞いていたんだけど、まあ余り伸びないですよ、金融はね。去年の12月はどーんものすごく伸びましたけど、今年は暮れも余り伸びないということで、結局借りる必要があるところは大体枠いっぱい借りちゃって、これ以上借りられない、枠がない。仮に借りてみたところで返済能力がないということだから、もう大体いっぱいいっぱいになってきている。いわゆるつなぎ融資ということで、資金繰り融資みたいなものはね。むしろ零細のサービス企業、例えばラーメン屋さんとか、お寿司屋さんとか、そういうような所は最近借りてきているようですけどね。まあ本当に皆さん方のような中小企業で借りる必要がある所というのは大体借り終わったと言ったらおかしいけれど、いっぱいいっぱい借りて、これ以上借りたら危ないという状況の所が多いということなんでしょうね。だからもう資金繰り融資金融よりも、むしろニーズはそういうことで、まさに仕事が欲しいということなんですよね。それはそのとおりですね。まあ県が付けるわけにもいきませんが、しかしおっしゃるように、確かに出る所をできるだけ出ないように努力をするという、これは大事なことだと思いますね。はい、どうぞ。

〔参加者〕

大変水を注すようで恐縮なんですけれども、実際企業誘致ということはどこも日本全国言っている、基本的にはほぼ無理と考えていいと思います。逆にどちらかといえば減るということをまず考えるほうが正解じゃないかなと。もちろん大企業さん、日本に留まるどころか世界のどこしか見ていませんから、単純に食いつがどんどん国内は縮小するのは間違いないわけです、人口も減るわけですから。それに伴って拡大というよりは縮小する中でどうやって仕事をしていったらいいのかということをもっと考えるのが明確であって、やっぱり海外というものもしっかり考えていかなきゃいけないと思うんです。やっぱり大手さんに手厚い対応を県政のほうでされているかどうかまでは分かりませんが、それよりもむしろ中小企業にもっともっと、1：9ぐらいの割合で中小にもっともっと分厚い対応を取っていただくことが、やっぱり何よりも今からの時代は大事じゃないかなというふうに思っております。やっぱり雇用ありきだと思いますけれど、企業さん、大企業に来ていただいて雇用いただければ、それは500人、1,000人ということも可能かもしれませんが、それ以上にこれからの時代、一番的確なのは中小企業の10人そこそこの、10人から20人の会社を5社でも、10社でも、50社でも、100社でも作って、それを

束にしてそこに需要が、新しい雇用が生まれるという考え方をしていたほうが、これからの厳しい時代の中ではないんじゃないかなと。山梨県という地域は、製造業も盛んだと思いますが、私が個人的に見る見解、やっぱり県外から取っている仕事のほうが比率的には高いと思っています。そんな中で言うと需要が、景気が低迷するとやっぱりどっちかと言うと弱い部分が山梨県の場合は露呈するのかなというのが印象でして、その中で強く生きるためには中小企業が強くなければいけないと。強いところで外に行って相手としっかり戦って奪い取ってくるというようなスタイルを考えてみてはどうかなということを思っておるところなんですけれども。まあ郡内の話で言いますと、本当に2、3人の会社が多くて、そこらじゅうに散らばっちゃっているんですね。これ何とかひとまとめにできないかと。工業団地ではなくて、中小企業が集約できる、極論で言っちゃえば土地は提供してやる、建物は自分たちでここでやれと。まあそんなうまい話はあるか分かりませんが、そんなような手法を取っていただいて、またもう一度やっぱり中小企業の方々にやる気をもう一回奮起していただくようにしたらいいんじゃないかなということを個人的に思っているんですけれども。

〔知事〕

そうですか。確かにどうも日本のこういう今のデフレの状態とか、その需要が減っていく状態の中では、まあ大企業は全体としてはやっぱり外に出ていきますよね。これは残念なことだけでも、しかしそういう中で中小企業ががんばって行くと。その一つとしてそういう中小企業団地的なものを作るというのは、そのニーズがあればね、それはもちろん作るんですけれども、果たしてニーズがあるかどうかなんですよね。どうでしょうかね。その団地的なものを作って、さあじゃあそこに入ると。ただで土地を提供するわけにはいきませんから、土地を買ってもらわなきゃいけないということになります、それで手を挙げて入る人がいるかどうかということなんですよね。

〔参加者〕

やっぱりそれは例えば山梨県の工業のあり方と言いますか、そういったものが山梨県から全国、もしくは世界にアピールできるような何かモデル的なものがまたできるというのも今のご意見をさらに膨らませてできるのかなと。まあ最初にだめと言ってしまえば終わりですけど、長いビジョンで見て、10年、20年、30年、50年という形で見て山梨という、その東京からも近いですし、いろんなことを考えて、そういう工業のあり方として長い目で考えるのも一ついいかなと思います。自分の一つの夢じゃないですけど、そういった工業団地というのができるということは非常にいいことだなと思いますので、やはりさっきもちょっと言ったようにいろんな会社の技術がうまくコラボレート、組み合わせられることによって新しい市場とかも出てくる、お客様を創造することができるかと思うんですね。そんな中で、ものづくり研究開発の補助金をいただけることになったんですけど、やっぱりそれもある会社とのコラボレートからそういったことが生まれてきたということで、やっぱり1社だけでがんばってがんばってとやっても限界がありますので、うまく情報とか技術を組み合わせることによって新しい市場とかお客様が生まれてくるかなと。その時にそういった工業団地とか、そういったものもまた必要、必要と言いま

すか、あるとより住みやすくなるのかなと思います。今結構使われてないような工業団地も県の団地がありますので、是非お安くしていただければ・・・

〔知事〕

使われていない工業団地ね。

〔参加者〕

まだ空いているところがありますから・・・

〔知事〕

空いている所、どこがあったっかな。

〔高根 産業立地推進課長〕

今ちょうど造成中の中央市、そして韮崎市のほうも今手を少しずつ着けています。そして今止まっているんですが、都留の方にも地場の小さい企業が幾つもありますので、フルインター化に備えて市のほうでも、将来的には工業団地を整備して皆さんがというようなプランも持っています。

〔知事〕

そういうことを都留市長が考えているんだよね。フルインター近くの病院の方に土地改良した土地があるよね。いい土地だよあれば。あれあたりを考えたいと言っているけども。

〔参加者〕

そのつもりで、一生懸命私もがんばらせていただきますので・・・

〔知事〕

そうですね。ほかにどなたか・・・

〔参加者〕

この中では装置メーカーとして動いている異色なんですけど、我々自身が今やっていること自体で言うと世界の頭脳、日本の品質、世界の協力工場と言っているんですよ。中小の我々の企業でも装置の組み立てとか、そういうものに対して言うと、もう太刀打ちができないんですね、装置メーカーとしてやっていくために。それはなぜかと言うと、我々インドに工場を持っていますし、最近ベトナムのことも考えているんですね。時給で大体50円とか30円とか、そんなとこなんですよ、ネジの装置の組み立てが。そこに例えば東京エレクトロンさんみたいな所と言うと3千円とか、外注さんは言っているわけです、時給で。これ勝ちようがないという考え方もあると思うんです。だとしたら今度どうやって行くかという考え方に立って我々はやってですね、実際に私ども会社に、ここの地域について常に感じるのはですね、まず一つは教育。教育という点で言うと非常にプアーだということなんです。日本の教育という、山梨特にそうですね、教育をやっぴり考えるべきか

など、小さいうちから。そういうものづくりをさせるための教育。これをしっかりやらないとやはり勝てないような感じがします。特に我々の所にインド人がいますけど、インドの国立の大学を出て、ナンバー1のこの人間がインドにいたら給料5万円なんですね。その人間と40万円の給料の設計屋を連れてきて能力を比較すると、10倍インド人のほうが優秀だったりするわけですよ。もうどうしようもない。やはり教育をしっかりするべきだと思うんです。教育をして、なおかつ新しいものをつくるベンチャーを育てる。ベンチャーを育てることによって、そこに仕事が、新しいニーズが生まれると思うんですよ。大きな企業を連れてくるのは、もう枯れているんですね。だからベンチャーの、ちょっとぐらい高くてもしょうがないから地元で早く作ってくれる所を選ぶんだと。そういうベンチャーをいっぱい作れば、その中の、100個も作ればそのうちの1個や2個芽が出ると思うんですね。やはりその中で言うと、神奈川のサイエンスパークだったりとか、ああいう所でやってたり、熊本クラスターとか、そういう他県で成功しているビジネスモデルというものもあると思うんです。そういうところでやはりベンチャーを育てて、それによってその地に企業が育つ。その企業から加工とかいろんなものが出てくるという模索の仕方というのがあるんじゃないかなと思うんですね。今の状態で言うと、いつも仕事下さいという方向にしかないですね。大手に仕事下さいというよりも、自分の県の中で大手を作ろうというのがあってもいいと思うんですけど、選択肢として。ちょっとそういうふうに思いました。

〔知事〕

確かにね。まあ山梨県から送った企業、東京エレクトロンなんかもそうだし、オプトなんていう会社もそうだし、小淵沢で作っているのは何だっけ、オキサイドとか、お宅の会社なんかもしかし将来は大企業になってくる可能性がありますね。ベンチャー育成ということはやっているんだけど、なかなか成功しませんね。ここもやっぱりインキュベーションセンターなんて言って、余り埋まっていますな、ここね。1社か2社しか入っていないわけです。

〔尾崎 産業支援課長〕

少し前まで8割は埋まっていたんですが・・・。たまたま今入れ替えて・・・。

〔知事〕

そうなんですか。まあそうなんですがね、ベンチャーもね。

〔参加者〕

ベンチャーと、あと学生の教育ですね。

〔知事〕

学生の教育ね。これはもう日本の教育、確かにそうだね。インドと対抗するのは大変だよね。

〔参加者〕

ベトナムにおいてもそうなんですけど、ホーチミンですと70%が30歳以下なんですね。30歳以下の人口の6割、7割が大卒だと。そしてその給料が1万5千円とかですから、なかなか難しいですね。山梨で高卒の子を雇えばやっぱり20万近く掛かりますから。

〔参加者〕

先ほどベトナムと出ましたけども、実はうちベトナムのエンジニアを正社員で雇っておりました、実はまたもう一人ベトナムから直接招聘するんですけども、素晴らしいです。ベトナムに11月の末に行ってきたんですけど、是非ともお願いしたいのは、かなり無謀でざっくりなお願いなんですけれども、是非ベトナムの、特にホーチミンでも結構なんですけれども、ホーチミン市と山梨県で何らかの協定と言うか、何かそういう姉妹都市みたいな何かがつるめれば一番いいのかなと。と言うのは、もうベトナム8,500~8,600万人です、人口が。今もう政策で2人以上産んじやいけないんですね。もう年々伸びる一方です。ハノイが首都ですけども、ホーチミンは、ベトナムの人口8,600万人に対して6,500万人ぐらい住んでいます。もう人・人・人なんですね。一番衝撃的だったのは、電線がドラム缶ぐらいの束なんですよ。もうまとまっちゃっているんですね、1本、1本はすごく細いんですけど。これ日本の今この辺にある電線と同じようになるには、どのぐらい時間が掛かるのかなと。もうお祭りでいうくじ引みたいなものですね。それを見た時にまだまだ10年、20年は間違いなくこの国は掛かるなど。その代わりそれだけの10年後、20年後に確実な需要はあると。ということ踏まえた時に、やっぱりもちろん先ほど言ったとおり中国、インド、タイ、ベトナム、色々ありますけれど、ベトナムに行つてつくづく痛感したのは食べ物にしてもすごくおいしいんですね。確かにおいしいなと思ったんですね。でも日本人的な考えで言うと極めきれないんですよ。究極はやっぱりできないんですね。そういう時にやっぱり日本の強みというのは出るんだなということ、食べる物を食べてすごく感じたところなんです。日本という国はカントリーですけども、でもやっぱりそういう部分の中は外国からも仕事は取れると思うんですね。そんな部分で何とか海外のそういう国々と何らかの形で関係を持てるのが、形としてはいいのかななんていうことはちょっと思っているところなんですけれども。

〔知事〕

なるほど、ベトナムというのはそうですか。まあ東アジアの国々の中では非常に将来のポテンシャルが高い国だという感じはしますよね。非常にそう思いますよね。まだ山梨県もベトナムまではあれしていないんですけども、やっぱりそろそろ考えたほうがいいですかね、確かにね。ベトナムで工場を持っているんですか。

〔参加者〕

ベトナムでは協力会社が今・

〔知事〕

どうですか。

〔参加者〕

いや非常に素晴らしいですよ。今100人体制の会社なんですけど、まだ小さいんですが・・

〔知事〕

また中国人とは違った、何て言うかな、忠誠心みたいなものはあるんでしょう・・

〔参加者〕

勤勉です。

〔知事〕

勤勉でね。

〔参加者〕

山梨県人でも世界中にいろいろな人が散っているんですね。かなり優秀な方がいまして、その中でやはりネットワークというのを作って仕事というのは取れると思うんですよ。インドのある会社、NHKの特集でも出ていたんですけど、CDプレーヤーとかで言うと世界第二位から第三位の量を作っている会社なんですけど、その副社長とか山梨県出身なんです。そういう所へ営業で話に行ったら、なんだ山梨かという話で、今結構大きな仕事の受注につながったりとかしていますので、海外に出ている方々とのネットワークというのは、やはり県政の中でも作り上げてもらおうと非常に助かるというふうに思います。

〔知事〕

どうやったらその情報がつかめるかですな。そうですか、なるほどね。ベトナム、そろそろベトナムに乗り出すか、じゃあ。

〔参加者〕

すごいです。すごい一言じゃ語れませんが、世界的なこれだけ景気が低迷している中で唯一GDPプラス成長ですから、タイ、インドがマイナス成長のところどれだけ自国の消費マインドがあるかということをお話しているなということは強く思いました。

〔知事〕

まあこの東アジアでいくとフィリピン、マレーシアもいま一つなんていう、まあタイはいいかもしれんと思うけど、台湾もちょっといっぱいになってきたという感じがするし。インドネシアはいまひとつ分からないしね。インドはまあいいかもしれんが、やっぱりベトナムですかね、やっぱり可能性が高いのはね。やっぱりちょっと日本人に似た所がありますよね。そうですか、なるほど、それは考えてみましょう。

〔参加者〕

天災もないですから、地震もないですから、インドネシアとはまた違って。やはり安定していることもあるかもしれません。

〔知事〕

なるほどね。はい、どうぞ。

〔参加者〕

海外もそうなんですけど、やっぱり私日本大好きです。梨大と私も燃料電池の研究と一緒にさせていただいて、本当に素晴らしい技術だと思うし、それを私たち中小企業に何か仕事につながれば将来的にはありがたいかなというふうに思っています。この前実験棟も完成をして素晴らしいものができたんですが、そんな中で私たちが何ができるのかということがよく分からないというのが多分本当のところだと思うので、まあ私たちが自ら勉強すればいいんでしょうけど、梨大が持っている燃料電池の技術というのはこういうもので、例えば中小企業が協力できるということこんなところができそうなみたいな情報がいただければ、それに対して手を挙げるところが出てくればそれが安く作れるだとか、ということにつながれば将来的には何かいいのかなと。

〔知事〕

いや確かにね、それはやっていかなければいけないんで、すでに色々やっているんですけどね、燃料電池についても。例えば自動車会社なんかは燃料電池の本当に基本的な技術みたいなものは絶対外に出さないですよ。自分の所で抱え込むわけですけど、しかし周辺技術が当然色々ありましてね、燃料電池は非常に裾野が広いですからね。そういうところはいろんな企業に出すんですよ。それを標準化して、そしていろんな企業に出して、そしていわゆる関連企業というか、協力企業を作っていくんですよ。そういうことはすでになりにやられつつあるんですよ、自動車組合についてはね。だから山梨でも少しそういうことを考えていかなきゃいけないということはあるんですよ。おっしゃるとおりだと思いますからね。それは我々もどうやって起業化するかですね。それは非常に大事なことだと思うんですよ。研究の段階、そしてそれがどうなんでしょうね。まあかなり基礎的な研究分野だから、それをどうすればいいのかな。今のところは大手の企業が、みんな山梨大学と一緒に研究していますよね。そういう人たちと中小企業とのマッチングみたいなことをやっているわけなんだけども。この間の会合出ましたか。

〔参加者〕

はい。

〔知事〕

そうですか。色々話だけはして・・・

〔参加者〕

そうですね、はい。

〔高根 産業立地推進課長〕

今非常に大事なところだと思います。県のほうで今年1回、大手の企業さんと皆さんと

の顔合わせをやったんですけども、できればあれを、例えば部門別にするとか何か広めまして、本当にその辺から情報とか、大手さんの要望も聞けたり、または山梨大学の技術とか、そういう情報交換の場づくりを今後もまたやっていきたいと思います。ただ燃料電池については、やっぱりいろんな技術が確立していくのに時間が掛かるというところもありますので、その辺を見極めながら何とかマッチングづくりは努力をしたいというふうに思っています。

〔参加者〕

よろしく願います。

〔知事〕

どうですか、今の会社のいろんな問題、悩みとか、あるいは県へのいろんな要望だとか、何でもいいんですがね。ちょっと話をしてみてください。

〔参加者〕

私どもの会社自体は部品加工をやりながら、こういう工作機械の製造をやらせていただいているんですが、この9月に山梨県の新事業分野開拓者認定制度のほうで認定していただきまして、その節はありがとうございます。それで私どもの機械というのは、工作機械というのは自動車産業の中で非常に重要な部分の加工をしてきた。自動車部品の製造の効率化、能率化なんかを達成するための技術として成長してきた同時加工というものでして、その加工自体色々な人たちから展示会とか全国を回る中、こういうものを学生に見せたいという話がありまして、そんな話を受けた中、今回山梨県の色々な学校様のほうにPRをさせていただきました。その中で私たちが受けた印象としまして、僭越なんですけど、先生方の中には学生がいきなりこういう専門的な機械を見ることに対して、まだ学生さんはそこまでのレベルに達していないんだから、ここまでのものは必要ないんじゃないかというふうな問い掛けをされる先生もいらっしゃったんですが、私たちとして見ていただきたいのはものづくりの精神として、私たちのような小さい企業が大きな会社の製造の流れを変えられるだけの、そういうちょっとしたアイデア商品的な物なんですけど、そういう技術の身近さだとか、そういうものを感じていただけるような工作機械として、学生たちがものづくりに関心を持っていただけるような道具として使っていただけたらなというふうに私たちは思ったんですが・

〔知事〕

それはそうですね。そんなことを言う人がいたんですか。工業高校へ工作機械を持って行って・

〔参加者〕

工業高校や短期大学なんかで色々PRさせていただきました。私たちもそういう小さい会社で、70歳ぐらいの職人と言われる社長の下でずっとそういう部品加工をやってきた中で達成した技術ですから、そういうものをものづくりの若者に見てもらえればなとい

うのが私たちの会社の、ちょっと我田引水的な話で非常に恐縮なんですけど・・・。

〔知事〕

そうですか、いやいや。なるほどね。分かりました。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

せっかくですから、県の方にやっていただいている一つの方策として補助金の関係がありますけども、やはりこの補助金は今回の景気の悪い中で、お世話になっている中小企業の方が大変多いと思うんです。我々が補助金を申請したりとか、過去にも受けさせていただいた中で、ちょっと我々のほうから要望なんですけども、補助金をいただけるといのはいいんですけど、その条件というのが結構縛りが多いというか、制約が多くて、なかなかじゃあ実際にいただいても使いづらいなと思うことが時々あるんですね。例えば社内人件費が認められていないんですよ。そうすると社内人件費が補助金の一部に認めてないとすると、我々外注に出すしかないんですね。そうすると結局お金がどんどん流出していつかやうことになるので、やはり開発の、例えば開発のための補助金とかという名目で出てもちょっとやる気がそげるといいますか、もう少し何とかならないかというのがあるんですね。あとは採択とか実施の時期がちょっとずれこんで来ちゃうわけですよ。実際6月には出ますとか、8月には出ますとかとずれこんで来ちゃうと、我々も生産の計画を立てて、部品も手配するのも結構時間が掛かりますので、そうするとせっかく手配をして買ったのに、この開発の期間から外れちゃっているんで、結局領収書が無駄になって補助金として使えないじゃないとか、そういうこともあるんですね。そしてあと一つ大きな問題は、例えば年度末で計画を区切られちゃうと、結局スタートが何らかでずれこんだ時に3月末で終わりですよということになっちゃうと、我々の開発期間が縮まっちゃうりとか。やっぱり色々条件を細かく見ていくと、総論は賛成なんですけど各論の中では色々制約があるなというのが・・・。我々としてもせっかく補助金をいただくんですから、やっぱり開発の意欲を十分出るような、そういう内容であつたらいいなというのがあって、もう少し自由度を持たせていただきながら、我々が使いやすいような補助金の条件にさせていただくとありがたいなというのが社内での意見なので、今日はちょっとお伝えさせていただきました。

〔知事〕

まあ確かにそうですね。

〔尾崎 産業支援課長〕

そのことを変えさせていただきまして、1年間丸々研究が、年度をまたいでもできるように・・・

〔参加者〕

ああそうですか。ちょっと最近のまた傾向というのはちょっとあれなんですけど、すみ

ません。そうですか。

〔知事〕

まあ言ってくれば少しずつ段々改善しますから。

〔参加者〕

そうですね。またよろしく願います。ありがとうございました。

〔知事〕

はい、どうぞ。

〔参加者〕

工業高校に関してのことなんですけど、ちょうどここにおられる皆さん何人かは関わっているんですけども、クラフトマン21という、この制度はもう3年目で、今年で終わりだといったところなんですけども、非常に私もこれ、地場の高校生に係った私の感想なんですけども、やはり続いて欲しいという気持ちなんです。地場の中小企業のこういういろんな会社に見学に行って、まあ数時間ですけども授業をやって、要するに最新の使い方、学校で学んでないことを現場の人たちと一緒にさわって、考えてやってくる。するとこの中でもおられますけど、工業に行って、工業高校に行って授業をされた方もおられますね。だからこれは人づくりの部分で非常に山梨県の質を、人の質を上げるために、そこは継続してやっていただきたいなと。底辺の質の向上という部分で言うと、僕らが要するに育てるといって少しおこがましいんですけども、やはり関わっていくというのが、今後の山梨のものづくりを高くし、ほかの県にも負けないような人材育成、一つ担い手を僕らが作れるんじゃないかなと思うんで、できましたら県のほうも・・・

〔知事〕

これしかし今年でやめるなんていう話になっているんですか。

〔参加者〕

3年の事業だというふうに聞いているんですけども・・・

〔知事〕

3年の事業だったかな。

〔市川 やまなし産業支援機構部長〕

文部科学省、経済産業省のほうは今年で終わりますが、県の教育委員会のほうで来年度予算計上の予定であります。

〔参加者〕

それはありがたいです。

〔知事〕

まあ継続するというこのようですから、引き続きよろしく申し上げます。

〔参加者〕

是非、私も協力しますので、はい。

〔参加者〕

今日出席している企業の中にも、子どものものづくり教室なんかをやったりしていますけど、私なんかは自分のことでちょっと恥ずかしいんですが、国語、社会、数学、理科、英語よりは、ものづくりの技術を覚えたほうがいいなということをつくづく思いまして、やっぱり当社自身でも今現在何かそこで役立てないかなということは色々考えております。先ほど話があったように、そういう事業を是非山梨県も独自で、これまでは国からどうのこうのであったかもしれないんですけど、是非意地になって何とか我々、私言っちゃっていいか分からないんですけど、我々企業側として少しのお金をいただかなくてもメリットはすごくたくさんあります。例えば学生さんが来てくれることで会社が活性化するとか、新しいお話を聞いて、あっ、そういう考え方もあるんだとかいうものをすごく得られますので、正直お金はいらなないなと思っているような企業さんもたくさんあるということは聞いておりますので、未来ある子どもさんとか、若者のためにも、やはり人材育成ということに力を入れていただきたいなと思うんです。

〔知事〕

県の教育委員会の方針でもキャリア教育というやつを非常に重視して、もう小学校の頃から将来自分の職業とかそういうことに関心を持たせるように、まあもちろんものづくりだけじゃありませんけどね、すると。そうやって常に自分の将来の職業、自分はどうやって生きていくのかということを考えながら育っていくということが、やはり生きる力を付ける意味でも大事だと認識して、割とキャリア教育みたいなことを一生懸命柱の一つに立ってやろうとしているんですね。まあそれはそれとして、そういう意味で工業高校も最近はずいぶんハッスルしていい人材を一生懸命育てるようになったんですけど、今年は全く、まあ来年4月の就職が厳しくてね、高校生の、高卒新卒就職希望者の。だから皆様方も一つ是非高卒新卒者の採用みたいなことをね、まあ可能な限りよろしくお願ひしたいと思うんですね。まあ工業高校卒は割とよくなってきているんだけど・・・。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

会社をやるようになって今の問題は設備の老朽化も一つなんです。会社を長くやれば設備も段々古くなっていくので、まあ中小企業の会社としては少しずつ今までメンテナンスを行ってきたので何とかなってきたんですけども、我々の団地は共同排水処理場がありますけれども、僕ももうあそこの団地に移って35年ぐらいになりますので、まあいろんな修理とかしてきたんですけども永遠ではないので、いつかは大きな、大規模な改修をしなければいけないので、それで新しく造るのか、今ある上にまた造るのかという話も

されているんですけど、そういう排水処理設備なんかの何か補助金みたいなものも
もしあれば・・・

〔知事〕

これは今どうなっているんですか。組合を作って管理しているわけですか。

〔参加者〕

そうです。工業団地協同組合で排水処理場を・・・

〔知事〕

そろそろ大改修しなきゃいかんですか。

〔参加者〕

そうですね、改修してきたんで何とかなるんですが、いつかは・・・、すぐにではない
んですけども、そろそろ考える時期が来たかなという感じですね。

〔知事〕

そういう補助制度はあるでしょうね、きっとね。共同処理施設みたいなものですか
らね。

〔尾崎 産業支援課長〕

すみませんが、ちょっとすぐにはお答えできないんですけども、まあ共同でされてい
ることであれば可能性はあると思いますので、後で調べさせていただきます。

〔知事〕

ほかにいかがですか。はい、どうぞ。

〔参加者〕

私どもの会社、県内北は北杜市から南は都留のほうまでずっと600社ぐらい扱って
います。県内企業さんを色々回ってみると、一人、二人でやられているところもあ
って、そろそろの方にお話を聞きますと、もうこの不景気だから店をたたんじゃ
おうかなというような人が結構いるんですね。まあ技術を持っていらっしゃる
方々なので是非とも県のほうで補助をしていただきたいというのがまず第一
点です。

あと、どうも山梨県は、今ここで話されている工業をがんばっていきましょうよ
という形が見えないんですね。長野県とかですとやっぱり精密加工、オルゴール、
時計で発展しましたよ。じゃあ山梨のキャッチフレーズは桃とぶどうと宝石、工
業のところは全く出てきていない。

私、色々話を聞いていますと、近い将来もう電気自動車がメインになって、鉄
鋼はほとんど減っていくだろうと。電気自動車ができれば、鉄鋼関係の部品が
3分の1になると言われています。じゃあその分野で、山梨県でどこかでや
ってらっしゃる会社がいらっしゃるかなという話を聞くと、余りいらっしゃ
らない。モーター類にしても、太陽電池にし

ても、アルミの製品、そういったところを含めて、逆に言うと北杜市にも太陽電池のようなでかい設備が今度やってきましたので、環境を主体に、まあ先ほどベンチャーという話がありましたけども、今の企業さんいろんなアイデアをいっぱい持っていらっしゃるんで、自由に使える試験研究費じゃないですけども、そういったものをどんどん給付していただいて発展していってもらえればなというふうに思っているんですけども。

〔知事〕

確かに日本は、山梨県は機械電子産業に特化していますけれども、機械電子産業もやっぱり生産関連というか、設備投資関連というか、そういうのが多いんですよ。やっぱりそれはファナックとエレクトロン、それからまあそうですね、横河電機もまあそうだろうし、それからパナソニックファクトリーソリューションとか、こうやって見ると大体大きい所というのはみんな投資関連ですよ。生産材関連が多いですよ。だからちょっと何て言うかそういう非常に特化しているものだから、産業の浮き沈みに弱いですよ。もうちょっとやっぱり産業構造を多様化していかなければということがあって、まあおっしゃるように確かにそれは環境関連だとか、あるいは健康関連だとか、もうちょっと多様な産業を育てていかなければいかんじゃないかという感じはしますね、同じ製造業でもね。そういうことはあるんですけどね。

来年はこの産業ビジョンというのを作りますから、そういう中で大いにそういうことを勉強して、産業界の皆さんが目指すべき方向みたいなものを明らかにしようかと思っておりますけどね。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

今、知事さんのほうから言われた産業ビジョンの件なんですけども、やはり山梨というトリニアの実験線というのがやっぱり大きな山梨の魅力的な部分になると思うんですよ。ちょうど推進室の課長さんがおられるんですけども、やはりリニアを基準とした構想で東京から15分の時間のメリット、そして名古屋に近くなってくるメリット、そういった部分を合わせるとやっぱり工業団地の、やはりこの特殊の工業団地の立ち位置のところを山梨でアピールできればなというふうに私なんか思っているんですよ。

〔知事〕

特殊な工業団地？

〔参加者〕

ええ。やはり近いよと。山梨は近いんだと。東北に行くよりも山梨は近いよ。これはやっぱり特色だと思うんですよ、リニアを使って。そうすると山梨の人口の件に関してもやっぱり増える。要するに工業がそこに行くとそのメーカーも多くなってくる。そして人の流れも多くなってくる。やっぱり時間という部分の特色を生かした立地ですよ、メーカーの。例えば医薬品に関しても、まあ医薬品業界というのは余り浮き沈みがないですよ。そうするとやはり僕らが身近に感じているニプロさんとか、あの辺なんかやはり山梨に

あったほうがいいし、地元の関係で。やはり医薬品の関係。それと大きいところで言うと半導体、東京エレクトロンの関係で言うと、ちょっと大きな話ですけどもインテルさんとか、その辺なんかの誘致もちょっと考えていくと、リニアという部分で世界にない、類のないリニアも山梨であるというふうに強調されるんじゃないかなと。それはすごく長期展望だと思うんですけども、リニアの駅があるよという部分で言う強みを是非知事の構想の中に、ものづくりの団地もしっかりあるんだという点も入れて欲しいなというような・・。

〔知事〕

リニアの開通までには相当ありますから、ちょっとまだ一般の皆さん方に話をしてもやや反応は鈍いんですよ。まあ5年先とか3年先とかということになってくると大分反応は違うんだろうと思うんですが、まだPRをしてもいまひとつまだ夢物語という感じにしか受け止めないところはありますけどね。まあリニアが実際にできれば非常に大きく変化をするだろうなという感じはしますね、ええ。確かにおっしゃるとおりですね。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

先ほどらい、皆様がしゃべっていただいたことが非常に私も同じような思いがありまして、ものづくりに係られる人間として、山梨県の組織の中で工業高校に行った方々が扱いがよくないというふうに私は思うんですよ。私は普通高校出身ですけども、普通高校に行けなかった人たちが工業高校に行くみたいな、特に郡内地域なんかはそういう色が強いんですよ。ただ山梨はものづくり県であって、そういうものづくりに携わろうという人材をすごく大事にするようなシステムと言うんですか、例えば大学があって、そこに工業高校から優先的に人材を吸い上げるとか、工業高校に入りたいんだという志す若者が増えていくことが、もう私たちの職業には非常に大事なことなんじゃないかなというふうに私は思います。

〔知事〕

それはそのとおりですね。まあ産業技術短期大学校も、まあ不景気だからということもあるのかもしれませんが、非常に今年は入学志望が多いですしね、だから相当定員を増やしたんです。それから今度、郡内のほうに産業技術短期大学校のようなものを作ろうというような動きもあるし、まあおっしゃるとおりだと思いますね。工業高校、確かに、例えば岡山なんか非常にそういう教育を一生懸命やっていて、工業高校というのは格が高いんですよ。山梨はまだちょっとそうでもない。まあ最近かなり良くなってきたんじゃないかという気がするけれども・・。まあさらに一段と努力をしなければいけないと思いますね。そのためにはさっきのクラフトマン21だとか、色々な形で産業界の皆さん方、若い方々に積極的に協力をしていただきたいと思いますね。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

我々の会社、来年2月に韓国の大学から生徒3名をインターンシップとして受け入れる

んですね。結構山梨の学生の方々も県内というよりも海外をやっぱり知ってもらいたいと思っているんですね。そういうところでもインターンシップで海外を見て、遊びじゃなくて実際海外の企業でものづくりはどんなことをしているのと。その海外を見るということは非常に大事なのかなと、生産現場をですね。中学、高校ぐらいから、まあ高校は特にですね、その辺から工業高校なんかだったらそういう製造現場で海外とか、いろんな所にインターンシップで1週間でも入れてもらうとかなり違うのかなと思いますけれど。

〔知事〕

それは例えば山梨の工業高校の生徒が海外のそういう所に行くと、どういうメリットがありますか。

〔参加者〕

まず学生が世の中の製造現場をまず一つ知るということがあります。それと同時に海外に実際に出たことがない方がかなり多いんですよ、何だかんだ言っても。そういうところで海外に出るということを知るというのはすごく大事だと思うんですね。例えば我々の会社で言うと海外に1カ月行ってくれと言ったら、会社辞めますというのが出るんですね。逆に我々なんかは当たり前の世界なんですね。海外に1カ月いるのは当たり前。その感覚が、もうギャップが広がり過ぎちゃって、製造現場の方々でもやはりそういう所でやっぱり1週間、2週間行けるような経験をしておくというのはすごく大事なことなんです。

〔知事〕

そうかもしれませんね。まあ日本人が、特に若い人が内向き思考が強くなってきたというのは、これは本当に憂うべきことですよ。

〔司会〕

お話は尽きないわけですがけれども、大分予定の時間を経過しておりますので、知事から今日の感想を含めましてまとめのごあいさつをお願いします。

〔知事〕

まあ色々なお話を聞かせてもらいましてありがとうございました。皆さん方が日々悩みながらも何かやっぱり新しいものにチャレンジしようと努力をしておられるというのがよく分かりまして大変に心強く思うと同時に、県として果たしてさあじゃあどういことができるのかと。まあ幾つかいろんなご提案がありましたから、そういうことが十分我々としても検討してみたいというふうに思います。まあ今の話にもありますように、これから東アジアはどんなことがあっても、まあ桃だ、ワインだ、ああいうものを売るといことの市場としてと同時に、やっぱり生産の面においても緊密な連携がないと、人の連携とか、そういうものはもうおのずから出てくるわけですから、やっぱり皆様方のようなこのものづくりの分野においても東アジアとの連携というのは非常に大事ですよ。そしてお客さんを取りに行くということもまた大事だと思うし、まあそういうことも、ベトナムも含めて考えてみたいというふうに思います。それから教育の問題が今日は大事であるというこ

とが大きなテーマとして出ましたですね。これもそのとおりだと思いますね。

まあいろんなお話を聞かせていただきましてありがとうございました。厳しい時代ですけども、山梨のものづくりを担っている皆さん方に山梨の未来はかなり皆さん方のこれからの努力に掛かっているところがありますから、是非一つがんばってやっていってもらいたいというふうに思います。県に色々と要望、その他あれば、いつでもいろんな形でおっしゃっていただければ我々としても最大限のことはやりたいと思いますのでよろしく願いいたします。今日はどうも皆さんありがとうございました。

〔司会〕

それでは以上をもちまして『ひざづめ談議』を閉じさせていただきます。